

都内初の取組



発災時に病院から医療救護所への電力供給体制を構築

災害拠点病院との連携による地域コジェネレーションシステムの運用を開始

と き	令和3年3月1日(月)から運用開始
と ころ	順天堂大学医学部附属練馬病院(高野台 3-1-10)、区立石神井東中学校(高野台 1-8-34)

区は、順天堂大学医学部附属練馬病院（災害拠点病院）と連携して、地域コジェネレーションシステムを構築した。これは順天堂練馬病院のコジェネレーションシステム※₁の更新を機に、災害時に病院から近接する医療救護所（中学校）※₂へ電力を供給する仕組みを導入するもの。

平時においては廃熱を利用する効率的で低炭素なエネルギーシステムであるコジェネレーションシステムを、災害時の備えとしても活用する。災害拠点病院から医療救護所へ災害時に電力を供給する事例は、都内自治体では初となる。

区では、首都直下地震等への備えを強化するため、非常用発電機器の設置や、電気自動車からの給電体制の整備など、緊急電源の多元化を進めてきた。今回のシステム構築で、緊急電源の確保が更に強化される。

※₁ コジェネレーションシステム…都市ガスを燃料として発電し、その際に出る熱を給湯や暖房などに利用するシステム

※₂ 医療救護所…避難拠点（区立小中学校）のうち、軽症者に対して応急処置を行う場所

【内容】

順天堂大学医学部附属練馬病院では、コジェネレーションシステムを300kWから370kWに更新した。災害時には、そのうち20kWを、近接する区の医療救護所である石神井東中学校に供給する。

【効果】

- (1) 平常時の効率的で低炭素なエネルギーの確保
 - ア 順天堂練馬病院では、コジェネレーションシステムで発電した電力に加え、発電の際に生じる廃熱を給湯や暖房に活用する。
 - イ 年間約200tのCO₂排出量の削減となる。
- (2) 災害時のエネルギーセキュリティの確保
 - ア 順天堂練馬病院では、非常用発電機と併せ、非常用電源が多元化される。
 - イ 石神井東中学校では、非常用発電機と併せ、非常用電源が多元化される。供給された電力は、医療品冷蔵庫用の電源やトリアージ用の照明等に利用する。

【参考】 トリアージ

災害発生時に多数の傷病者が同時に発生した場合に、傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送を行うための治療優先順位を決定すること。

【問い合わせ】

練馬区 環境課 環境計画推進係

電話 03-5984-4702